

《企画書》

提出者 かつらぎうりゅう

【タイトル】 ～「自分はこのものじゃない」と密かに思う人の～
心から「これだ」と思える仕事の探し方

【概要】

本企画は、今の仕事に不満とあきらめを感じている20代～50代の男女に、満足する仕事が見つかる視点と手法を伝える内容です。でも、給与やワクワクや好きなこと得意なことから見つけていくと嫌いな仕事が続けられるだけ。見つける焦点は「子供時代のヒーロー」そのキャラクターの生きざまと在り方のどこに感動したのかのチェックです。それはあなたの仕事探しの「焦点」になり「天才性」とも結びついています。楽に稼げるではなく、自分と社会の絆を作る「納得」する仕事が見つかります。

【想定する読者ターゲット】

- ① いまの仕事が好きになれず、もやもやしている人
- ② 転職したいけれど「どうせ次の会社も同じ」と悪い方に想像する人
- ③ 50代で「もう転職むりかな」と思いつつ、でも自分をあきらめたくない人

【構成案】

第1章 仕事に満足する人とあなたは何を違うのか？

- ・仕事の満足はお金よりも「納得感」
- ・この3つ（好きなこと・得意なこと・お金になること）から探すから失敗する
- ・「納得感」は大切なことを守ることから生まれる
- ・今の仕事の嫌な部分を出してみよう 全部伸びしろに変わる

第2章 いつからでも見つかる 居場所=仕事

- ・心の言い訳「でも●●●だから」に気づくと前向きな仕事探しへ
- ・「ここに居場所がある」幸せな仕事を持つ人の感覚
- ・「仕事は辛い」の捨て方 ワクワク信仰から離れ、納得を目指す

第3章 仕事探しの「種」は子供時代のヒーロー

- ・眠っている「誰かのために頑張りたい」この利他の気持ちが「種」
- ・あなたのヒーローのどの場面で感動した？（ドラえもんが命をなげうってのび太を助けた）
- ・ヒーローに隠れているのはあなたの天才性と、本当の自分との絆
- ・7つの仕事の分野で仕事選びの「芽」を伸ばす
- ・“ラクして”ではなく心が燃える選択をする（キングダムでいえば信が成長し続ける生き方）

第4章 隕石が降ってきても、仕事を淡々と続けたい位好きな仕事

- ・順番を守るからうまくいく ①ヒーロー→②好き→③得意→④お金（ワクワクが先だと軽い仕事にたどり着く）
- ・①②③④から仕事を見つけた人の声 辛いことも良いことも心から満足できる
- ・辛いことは成長の証拠と歓迎する

第5章 結局あなたの思いが濁っていただけなんだよ

- ・思いは視点、仕事の結果 ヒーローという視点で巡り合う仕事が変わる

- ・親や社会の要求という「皮」を脱ぐ 自分と仕事の絆を結びなおす
- ・未来、まわりのひと、社会との絆の結び直しが始まる

【サンプル原稿】

第4章 自分の中のヒーローを探す

今までの章で、自分が満足する最高の人生を妨げがちな理由の話をしてきました。

そして、この章では、いよいよ、最高に満足する人生のためのあなたならではの、本当のあなたに触れる、大切なこととお話していきたいと思います。

あなたならではの、本当のあなた、それをこの本では、「あなたの中のヒーロー」と呼んでいます。

ヒーローを定義すると、多くの物語などに出てくる主人公のこと。（男性の場合も女性の場合もあります）

漫画やアニメの中のヒーローは、最終的に自分の思いを元にして、自分の力や知識や経験を元にして、誰かや社会のために役に立つ行動をして、みんなを救います。

一言で言うと、ヒーローは

「何を成し遂げたい、そして助けたい」と思っています。

そして、多くの場合、その目的のために立ち向かい、成長していきます。

私たちの、最高に満足した人生とは、自分の中のヒーローを生きること。

あまり、一般的には言われていないことなので唐突かもしれませんが。

（中略）

ヒーローを生きる事例をいくつかご紹介します。

1 世界的なエクササイズインストラクター試験に合格し、 一步を踏み出した元保育士Hさん（40代）

先ほど、自分の中のヒーローの感覚を探すということを紹介しました。

ヒーローとは、漫画やアニメの中のものと普通は思われがちですが、私は誰の中にもあるものだと考えています。

そして、漫画やアニメの中にも、いろいろなヒーローがいます。
また、私たちも好きなヒーローも一人一人違います。

私が支援する中で、その方の中のヒーローを探すためのガイドにするのが、その方が、なるべく子供の時、夢中になったアニメ、映画などのキャラクター、シーンを探すということです。

なるべく子供の時としているのは、年齢が上がれば上がるほど、今、目の前の現実（左脳）に影響されて、夢中になれる感覚が少なくなるからです。

このHさんの場合、それはキングダムという中国の春秋戦国時代を描いた武将ストーリーのキングダムの主人公、信でした。

どれだけ大好きかと言えば、ここでは語り尽くせないほどなのですが（笑）

そして、一人のキャラクターだけで、ヒーローの感覚が明確な事もありますし、複数のキャラクターをクライアントに聞くとときもあります。

キングダムの信だけだと知らない方もいますので、このHさんが他に夢中に大好きなキャラクターは、スラムダンクの桜木花道です。

キングダムの信もスラムダンクの桜木花道も、周りの環境は、スタートラインが不利なところからであっても、絶対に負けない。そして、周りから誤解されても、不器用な人間関係を抱えていても、自分がすぐなくなっていくことを目指していく生き方をしています。

つまり高い目標、最高の自分に、ずっとあきらめずに挑戦し続けていく生き方が、キングダムの信やスラムダンクの桜木花道の生き方。

そして、どちらのキャラも決して、最初からセンスがあったわけではなく、思いといわば根性で、最高の自分を目指しているキャラクター。

そんな生き方をしているキャラクターに憧れているということが実は彼女自身の中にあるヒーロー、こう生きたいという願望でした。

（中略）

彼女の中にあつた違和感。彼女は世界的なフィットネスのインストラクターを目指すまでは、自分は子供がなんとなく好きというところから始めた保育士をされていました。

ただ、保育園という女性ばかりの環境の中で、子どもに問題のないように面倒を見て教育する、育てる、見守る保育士の仕事は、人間関係でもスムーズにいかないこともあり、そして何よりしっくり来ず、本当にこのままでいいのか、とずっと悩んでいたとおっしゃっていました。

自分らしく生きていくという意味で、保育園の先生という仕事は、彼女の中のヒーロー性とは合わないものだったと言えます。

(中略)

最後は、どの分野でヒーローのような生き方をしていくか。

心理学者で、1985年にアメリカの心理学者であるエドワード・デシとリチャード・ライアン (Richard M. Ryan) が提唱した自己決定理論という理論があります。

人が最も幸せで満足を感じる選択とは、自分自身で決定したという感覚が必要だということです。

自分の中でヒーローである生き様が決まった後に、私は、今世の中にある具体的な職種でなく「どの領域で活躍したいか？」をクライアントに質問します。

どんな仕事があるか、適職があるかは後回しにします。

具体的には、以下のような分野から、メイン1つか、メイン1つ、サブ1つで選んでもらいます。

大切なのは、現実に成功するかは関係なく、自分の内なる声で決めてもらうので直感です。ポイントは、**どの分野で困っている人を救うヒーローになりたいか、になります。**

1 心の分野

人の心を癒したり、勇気づけたりするような仕事。

2 知性、研究、技術の分野

何か知識や研究、技術で人の役に立つような仕事。

3 ビジネスの分野

何か世の中に新しい仕組みや仕掛けを作る仕事。

4 お金の分野

投資など、お金そのものに関わるような仕事。

5 家族の分野

家族のことや家族の人間関係に関するような仕事

6 社会の分野

より多くの人たち、社会問題を解決するような仕事。

7 体の分野

体を治したり、体を使ったり体に関することを扱う仕事

上記のような分野の中から、自分自身今の段階で、誰かを助けたい分野を選ぶ勇気を持つことが大切になります。

事例に出したHさんも、これまでの人生の流れ、そして自分自身が誰かを助けたい分野として、7の体の分野を自らの意志で選択しました。

前に進まなければいけない時、漫画やアニメのヒーローも、最初、自分決めた役割を歩き出すのに戸惑いや葛藤があるものです。

同じように、戸惑いや葛藤があっても、自分の中にある憧れるヒーローの生き様と、すでに人生の中にあるサインや、直感を信じて、自分がヒーローになると決められる分野を、決めてみましょう。

最初は、ためらいが少しあり、誰か、大丈夫、できる、と言ってくれる人が必要になるかも知れません。

それでも、次第に自分自身の内なるヒーローとしての生き様を進め始めるにつれ、仕事と人生が満足できるものにどんどん変わっていきます。

これから、その後のさらなる続きを書いていきたいと思います。

[以上となります。よろしく願いいたします]